

岡本眸の春の句

仰ぐとき紅梅と雲相触れし
雪解風わが身を鈴となしゐたる
竹林に余寒の夕日音立つる
ふと思ひしばらくおもふ野火遠く
魴挿しの魴さすほかは考へず

松岡隆子 抽